

# 小さな学校の 大きくなつながら

～石別中学校で育まれる 心のあたたかさ～

## 三者合同石別ふれあい文化祭

10月22日(土)に「三者合同石別ふれあい文化祭」が、石別小学校の体育館を会場に開催されました。コロナ禍での文化祭も3年目を迎え、感染症対策に配慮しながら3年ぶりに小・中両校が一堂に会しての開催となりました。

文化祭のオープニングを飾ったのは、中学生による和太鼓の演奏で、曲は中学生の創作でした。音楽の授業の中で生徒一人一人が考えたりズムを基に、3年生が話し合いを重ねて曲に仕上げていきました。曲目の「千紫万紅<sup>せんしばんこう</sup>」も、3年生がつけたものでした。(千紫万紅…色とりどりの花が咲き乱れている様子。色鮮やかさま。紫やま。紫や紅などのいろいろな色の花という意味)



心と音をひとつに太鼓を打つ

1・2年生と3年生の各学級の

発表では、社会見学・職業体験学習・修学旅行等で学んだことを、

各自が観客にわかりやすく楽しんでもらえるよう工夫を凝らしました。なぞなぞやクイズ、演技などが盛り込まれ、会場は大いに盛り上がりました。

エンディングでは、小中全校児童生徒での太鼓演奏で、会場に感動を演出しましたが、全員が高い集中力で見事な演奏を披露しました。

「Keep Smiling 輝け石中!」のテーマのとおり、色とりどりの花が咲き乱れるように、一人一人が輝いた文化祭で、あらためて子どもたちの無限の可能性を感じることができました。



小中合同太鼓演奏

## 茂辺地中学校との遠隔合同授業

11月8日(火)に、本校では初めての試みとなる「遠隔合同授業」を実施しました。

これまでもオンライン「Zoom」を活用した遠隔参加での行事や交流は行ったことはありましたが、通常授業の中での実践ははじめてのことでした。

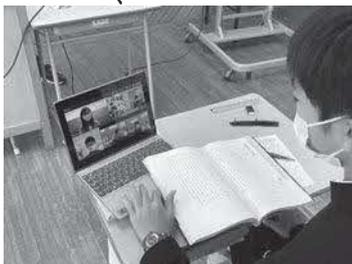
中学2年生の国語科の授業で「短歌の味わい」という単元があり、実際に短歌を創作するという学習活動があります。

短歌は創作して終わるものでももちろんなく、誰かに読んでもらうこと、誰かの作品を読むことにつながっていくものです。

しかし、人数が少ない学校においては、読んでもらうことも少なくなりがちで、自分以外の同級生の短歌に触れる機会も限られます。

そこで、石別中学校2年生と茂辺地中学校2年生とがグループウェア「Microsoft Teams」を活用し、オンライン上でそれぞれの短歌を披露したり、

解釈をしあったりする授業



遠隔合同授業の様子①

を行いました。

自分の

短歌を解

積される

という活

動に加え、

遠い場所

にいる相

手との交

流という

ことで生徒は緊張した様子でしたが、充実感もひとしおだったようです。

石別中学校では今後も、校区内のさまざまな施設と交流をしたり、授業を公開したりなど、地域とのつながりを大切にしていこう予定です。



遠隔合同授業の様子②

### ほかにもある石別中の取組

#### ☆ノーチャイム

生徒の自主性を育むことを目的として、終日チャイムは鳴りません。生徒は時計を見て、自分の判断で動いています。

#### ☆特認校

個別最適な学びの実現を目指し、求めに応じて校区外の生徒を受け入れています。該当の生徒はいさりび鉄道に乗って、毎日通学しています。

(石別中学校教諭 渡部 知也)